

上田の杜

会報の発刊に寄せて

岩手大学ミュージアム

解説ボランティアの会



会長 佐藤 喜範

「会報みたいなものがあるといいね」「会の動きを何かに残した方がいいね」……

多くの会員みなさんからこんな意見や要望が寄せられています。

この度広報グループのみなさんが中心になって発行する運びとなった「上田の杜」は、こうした要望に応えるもので、グループのみなさんのご努力に心から敬意を表します。

目標は若干の無理を伴うものが望ましいといわれます。それを念頭にこの「上田の杜」にちよつと欲張った期待を申しますと、次の三つということになるでしょう。

その1、動きがわかる「上田の杜」

その2、思いを述べ合う「上田の杜」

その3、歴史を残す「上田の杜」

これを見ると、会のいろいろな動きがわかるようなものであってほしいし

第一号 (二〇〇五年十二月三日)

発行 岩手大学・岩手大学ミュージアム

解説ボランティアの会

編集 広報グループ・パソコングループ

(情報伝達)、またみんなの思いや願いが相互に伝わるようなものであってほしいし(相互交流)、会の歩んだ道がよくわかるようなものであってほしい(活動記録)というわけです。

何ごともそうですが、ある程度思いや考えがまとまったら、まずやってみることでしょう。やってみなければわからないことがいっぱいありますから。とはいえ、続けて発行するというのは人知れぬ苦労が伴うもの。無理せず、「継続は力なり」でいきましょう。さっきの欲張り、あくまで「願望」に過ぎません。



館長 岡田 幸助

岩手大学ミュージアム

この度は解説ボランティアの会の会報が創刊されることになり大変おめでとうございます。この会報を通じて会員相互の良

いコミュニケーションがはかれるよう祈ります。第一期でお辞めになった会員の方にも会の現況をお知らせする良い手段になるのではないのでしょうか。

第四回研修会

リモートセンシングを学ぶ

岩大ミュージアム本館の展示物について学ぶ研修会が八月二十三日にミュージアム本館で開かれ、今年度特別展示のリモートセンシングについて研修した。1974年から今年3月まで、工学部の情報工学科に在職していた、横山隆三名誉教授の解説で1986年から岩手大学が取り組んできた、リモートセンシング(遠隔計測)による環境マネージメントの歩みについて学んだ。

研修の会場は、一階の床面に展示されている五〇〇〇分の一の岩手県地図の上。宇宙衛星ランドサットから送られてきた地球の映像を、横山先生が研究室で受け取り、コンピューターで解析した結果、浮かび上がった岩手県



の環境や産業の課題などが解説された。(向井田)(写真は、床パネルを説明する横山先生。)

大学博物館でボランティアの組織を作っておられるところは多数ありますが、我がミュージアムの組織は全国に自慢できるものと確信しています。それも役員の方々の始め会員の方々の御努力のおかげと心から感謝しています。先日も岩手大学で国立大学博物館等協議会が開催されましたが、全国の先生から大変評判が良く私も鼻が高く思いました。先日、1年生に行っている「岩手大学ミュージアム学」の授業のレポートを見ましたら、学生さんも解説ボランティアさんに案内してもらって大変感謝していました。皆さんの活動が岩手大学の活性化に大変役立っている事実が徐々に認識され喜びの限りです。現在展示方法の改善策として「展示グレイドアップ事業」を行っています。年内には完成する予定です。また、廊下には須川長之助の植物展を企画しています。貴重な標本が傷むのを避けるため、通常は標本の写真またはコピーの展示としますが、暖かくなったら、数週間、植物の実物標本の展示と講演会なども企画していますから楽しみにしてください。ボランティアの会のますますの充実発展と、今後とも変わらぬ大学へのご支援をお願いして挨拶とします。